

秋翠への招待

将来性を見抜く 観点と要点 後編

横浜錦鯉・大菊拓朗

講演会

平成15年5月3日(祝)
金沢産業振興センター

秋翠の深さ、仕上りの楽しさ等々は前編を通してわかりただけたと思う。また、秋翠は意外と思えるほどの魅力を秘めていた。

錦鯉はどの品種をとっても、奥を追えば切りのないものがある。多くの人は表面のみを見て通過するが、真剣に追った者の目は鋭くその奥を射るように指摘する。

秋翠の後編は、その魅力をさらに掘り下げ、質疑応答もまじえて、大菊拓朗さんの秋翠論が展開する。

重蔵産・どちらの当才が良くなる？

チヨボ墨の形から拡散を知る
地体のブルーの透明感も重要

現在の重蔵産の秋翠で、阪井系統が入っていない鯉の代表的な当才、明け2才ですが、このような(写真⑩・⑪)感じの鯉になります。見てわかると思いますが、頭の芯には蒙古斑こはんのような黒味を持ち、口先が白いという見どころを持っています。

どちらの鯉が良くなると思われるですか。同じ年の、同じ生産者の鯉です。答えは、こっち(写真⑪)です。それは、ここを見てももらいたいです。頭の芯の墨の形です。この鯉

(写真⑩)は、丹頂のように丸く中心に寄っています。こちら(写真⑪)は、色合いが外側へと拡散しています。

こういう鯉(写真⑩)のタイプは、黒い色素を強く持っているものが多く、大きくなった時にジャミる鯉が多く出るような気がします。これ(写真⑪)のように芯の黒さがしつかりしていて、鼻先が抜けている鯉のほうが黒くなる色素が少ないようです。

また、肌の皮のところを見てほしいのですが……写真では判りづらいかもしれませんが……こちら（写真⑩）の水色はくすんでいます。こちら（写真⑪）はスカイブルーのように晴天の時の空の色をしています。が、これ（写真⑩）は3時間後には雨天になりそうな、濁ったような水色をしています。ですから、肌の透明度によっても将来性を読むことができると思います。

同じ重蔵産の当才で、もう2本を例としてあげてみます。これ（写真⑫）とこれ（写真⑬）です。先の例と同じように、これ（写真⑫）は頭の芯の墨が拡散しています。こちら（写真⑬）はセンターに入っています。同じ兄弟の当才でもこれだけ持っている黒の色素、質が違ってきますので、よく観察してほしいと思います。

また、地体のブルーも見えていたできたのですが、これ（写真⑬）は、すっきりとした透明感のあるブルーですが、こちら（写真⑫）は濃い夕立雲を思わせるような、ネズミ色を混ぜたようなブルーをしています。その違いがあり、立てていけばおそらくこちらの鯉（写真⑬）のほうが良くなるのではないかと思います。

当才の見方として参考のためにさらに2本の写真（写真⑭・⑮）を用意しています。この2本も重蔵産の秋翠です。同じような見方で見ていただければ良いと思います。これは一応、本年産のカシラの秋翠です。変化のある模様、体型、鱗の並びなどがしっかりといることと、頭は実際にはここまで黄色くありませんし、芯の墨がセンターに寄っていることなど……5本の指に入る鯉で、立ててみてもおもしろいと思います。

この鯉（写真⑮）には、光りが入



●写真⑩・⑪／頭の芯の墨の形、肌のブルーの色などから、大菊さんは⑪が良くなると見る



●写真⑫・⑬／同じ兄弟の当才だが、黒の色素、質がかなり異なる。また、地体のブルーの違いから、大菊さんは⑬のほうが良くなるのではないかと言う

っていますが、秋翠には鱗が光るものの中にはいます。これは好みだとも思いますが、「鱗に光りが入ったものは駄目」とか「良い」とか、それは特に言わないと思います。ただ、大きくなると次第に光りが拡散してきて、目立たなくなってきました。小さいうちは、銀が入ることで美しい、あるいは不快に感じる鯉も大きくなると銀がわからなくなってしまうことが多いようです。

入賞実績のある秋翠から

秋翠の立て鯉の見方を、私なりの経験に基づいて話をしてみました。立て鯉が仕上がっていく様子が少しお分かりいただけたのではないかと思います。次からの鯉は仕上がりが過程の写真はありませんが、販売をして品評会で入賞したものから数点を選んでみました。これまでお話をした要点が現れていると思いますので



●写真⑭・⑮／共に本年産のカシラ。⑮には光りが入っている。「鱗に光りが入っているのは好みの問題であって、良い悪いは特にない」と大菊さん

●写真⑯／重蔵産。28回関東甲信地区大会50部優勝



●写真⑰／和田秋翠（写真イ）の子。33回東京大会で15部優勝



参考にしていただければ良いかと思っています。

麗な状態を保って大きくなっています。

これ（写真⑯）は重蔵産の秋翠で、最も教科書的だと思った鯉です。緋のキワが綺麗に入っていて、奴があり、鱗並びも迫力があり、理想的だと思います。東京大会では優勝をしています。

この鯉（写真⑰）は重蔵産の和田秋翠（写真イ）の仔です。当才の時に15部で優勝をし、今もまだまだ綺麗

これ（写真⑱）も和田秋翠を親にした重蔵産の鯉です。東京大会で25部の優勝をしています。この鯉も多少銀を噛んでいます。今は光りが拡散して、銀を持っていることを感じさせない魚になっています。また、先ほどお話をしました頭の芯の黒さは、2才に近づいてくると、このように見えなくなることがわかりいた

けるかと思っています。最終的にはわからなくなってしまう。

これ(写真⑱)も和田秋翠の子供で、2才です。模様がすごくおもしろかったので仕入れてきた鯉でした。この鯉は元赤がすごく綺麗なです。左右対称に入っていて……元赤は伸びやすい傾向がありますが……両方ともに丸く収まっています。頭には小梅チャン(小丸点)が入っ

ていて、可愛い感じがします。

この鯉(写真⑳)の鬼鱗は飛んでいる状態になっていますが、その部分だけに緋模様が入ること……重蔵さん曰く、「鱗が飛ばないと模様が入らない」と……。でも、この鯉は鱗が飛んでも緋模様が入っていません。これはオス鯉でしたが綺麗なでした。員数としてはそろっていいところもありましたが、秋翠とし

ては綺麗に仕上がった鯉でした。

次も重蔵産の秋翠(写真㉑)です。

当才における頭の芯の黒味を何回もテーマにしていますが、これは黒くなるタイプの秋翠です。これは2才の鯉ですが、黒味が丸くなりセンターに集まっていなくて、2才では黒がこのように拡散するんです。頭の部分が少し黒ずんだ感じがします。おそらく将来、真っ黒になってしま

うと思います。ですから、当才の選び方としては、「黒丸点」という観点で見てもらうと良いと思います。

鬼鱗と緋模様の関係で、鱗のところに緋が絶対に入らないという説を打ち砕き、それを証明する鯉がこれ(写真㉒)です。それを言った本人の重蔵さんが作った鯉ですが、鱗にちゃんと緋が入っています。鱗の上に重なる緋盤はこの鯉の各所に見られます。たしかに「鱗から緋が逃げる」のもあるかもしれませんが、絶対のことだとは言えないケースをこの鯉が示しています。

次も重蔵産の秋翠(写真㉓)で2才です。先ほども秋翠の理想という話をしましたが、頭と体の色の落差……肌の色合いと頭の銀杏色の相違……境界線のようにこの鯉には出ています。このような鯉は非常に長持ちします。実際にこの鯉は全く黒くありません。この色の落差は当才ではほとんど出ません。2才、3



●写真⑱／和田秋翠の子。30回関東甲信地区大会40部優勝

●写真イ／和田秋翠。31回東京大会種別日本一賞を受賞



●写真⑱／和田秋翠の子。33回東京大会で25部優勝

●写真㉑／28回関東甲信地区大会45部優勝



才を選ぶ時に、そのこともポイントにされたほうが良いと思います。

次も重蔵産の秋翠(写真②④)で、前の鯉と同様に色の落差がはっきりと出ています。頭の銀杏色と体の白さという異なる色の対比が綺麗で、この鯉も真っ黒になっていません。そういうことから将来性のひとつを予見することができると思いますが。

それとは逆に悪い例がこれ(写

真②⑤)です。黒くなりやすい鯉のひとつの例ですが、黒味がたくさん入った時には、このような色合いになります。全体に黒ずんでいます。ただ、この魚は今が良い意味でも悪い意味でも目一杯の状態で、このままだ、品評会へ出すと、絶対に優勝が取れます。しかし、半年も経ちますと黒くなりますし、現にこの鯉は黒くなりました。



●写真②①／35回東京大会30部優勝。重蔵産



●写真②②／「鱗には緋が入らない」という定説を覆した鯉。34回東京大会35部優勝。重蔵産

秋翠のシミについて

(以下、質問に応じて)

——紅白などには二番緋などの問題がありますが、秋翠のシミも二番緋のように取れませんか。

大菊 秋翠の黒くなるものを取ることは難しいと思います。ただ、飼っている人はわかるかと思いますが、ゴマのようなものが出ます。それを取ることはできます。頭の部分ならば削って取ることができず、体に出たシミも、えぐれば取ることができます。しかし、緋模様のところに墨が出るものがありまして、それを取ると、「窓アキ」になってしまいます。経験者に聞くと、「そこは緋が復帰しないで、白くなってしまふ」と言いますので、緋模様のところ



●写真②③／32回東京大会40部優勝。重蔵産

ろに出た墨は、なるべくいじらないほうがよいかと思っています。表面の浅い墨ならともかく、深い墨は自分で処理することは難しいと思います。

——薬で墨は取れませんか。

大菊 薬では墨は取れません。緋模様を取るというものは聞いたことがあります。墨を取る薬はないと思います。

頭の黒味と丸点はどういう優先？

——頭が蒙古斑でボーツと黒くなっている、そこに綺麗な形の丸点がある鯉の場合はどのようになりますか。

大菊 赤い丸点は残ります。でも、蒙古斑が拡散してくると汚くなっ

て、緋が濁ってきます。下地の黒が下りてくると藍衣を汚したような緋の色合いになってきます。

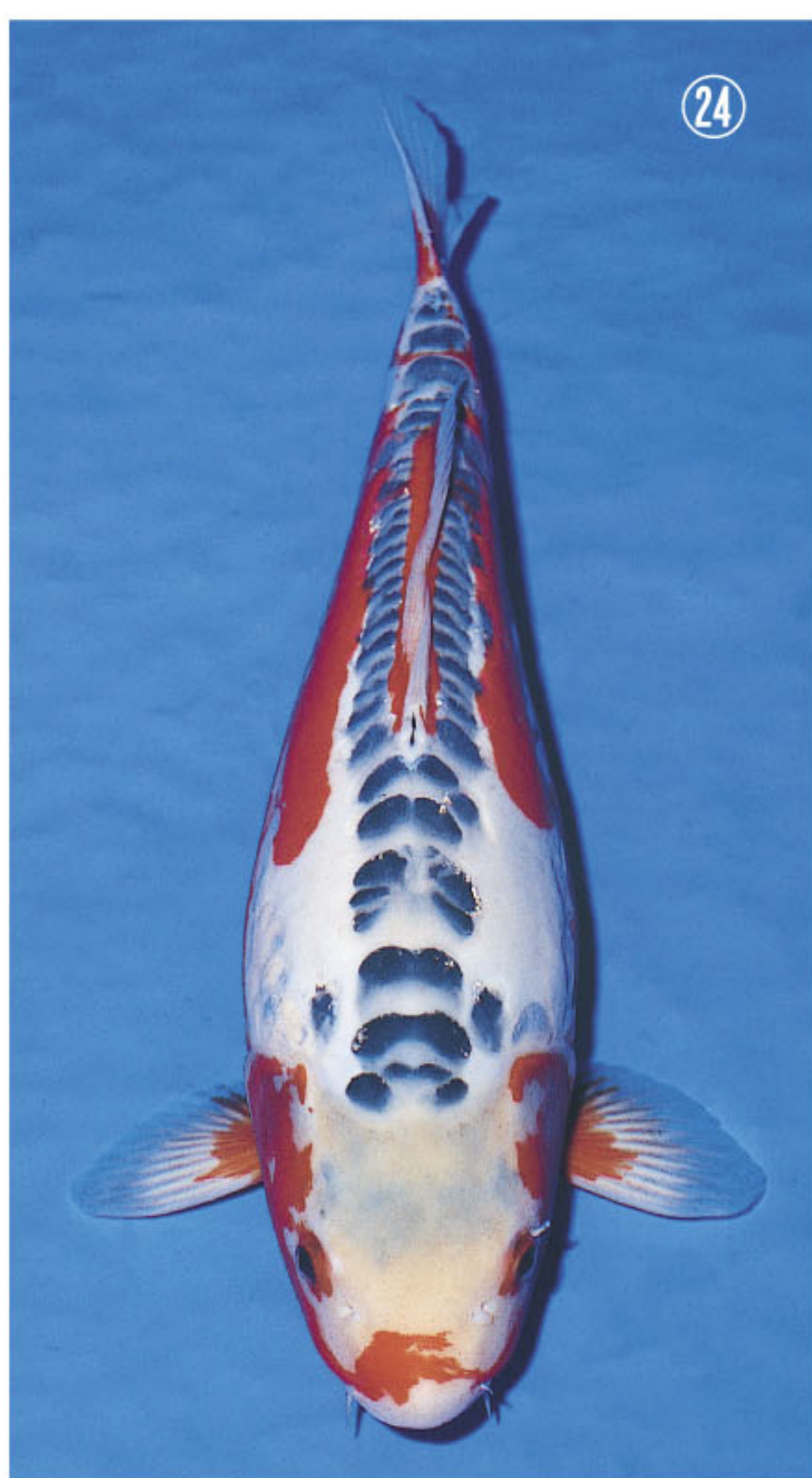
——ということは、緋はそんなに厚みのあるものじゃないということですか。

大菊 緋盤に底の地を映します。下から黒が浮いてくる感じで、泥水の上に紙を落とした時に、白い紙に黒さが染みてくるようなものです。

——三色の青地みたいなもの？
大菊 そうです。そういう感じになる傾向があります。

——三色の青地のところに緋があるということですね。

大菊 同じようなもので、緋があつたから墨を隠せるというのは、小さいうちはあるかもしれませんが、大きくなって墨が拡散してくると、いたるところから黒が出てきますの



●写真②④／25回関東甲信地区大会50部優勝



●写真②⑤／32回東京大会25部優勝。「黒くなりやすい要素を持っている」と大菊さん

で、丸点の緋盤を維持することは難しいと思います。

スピリリナは秋翠にも効果があるか？

——色揚げ飼料で紅白などの色は赤くなりますが、秋翠も影響しますか……良い影響、悪い影響があつたら？

大菊 秋翠に普通のスピリリナを与えた時に、緋盤の赤も多少は揚がるんです。ある程度のところまでは揚がります。

その他に秋翠にとってスピリリナの良いところは、ブルーが綺麗になるんです。これは少し意外なことですが、スピリリナを与えると地体のブルーが綺麗になります。何故か、それはよくわかりません。新潟の生産者が泥池で、色揚げをやった池と、やらない池に、同じ腹の当才を分けて放して秋揚げを見ると、ブルーの色が鮮明に出ていたのは色揚げ飼料を与えたほうだったという結果が出ています。

——先ほどの話ですと、緋盤についてはスピリリナよりも、ニンジンのほうが効果があるということでしょうか？

大菊 ええ。なぜかわかりませんが、

秋翠の緋にはニンジンが効果があるのと、僕がやってみて、そのように思いました。

——ニンジンが生でもよいですか。

大菊 いえ。生では硬くて食べないと思います。茹でてやつてもどうか……。僕はニンジンジュースを餌にしみ込ませてやつています。

背赤のある鯉は黒くならないか？

——『月刊錦鯉』に、背赤があれば黒くならない、背赤がない鯉は黒





●実物の秋翠を見せながらレクチャーする大菊さん。参加者も真剣に聞き入る



んじやったもの……ちよっと違いますよね？

大菊 ええ。もしかすると、どこかでドイツ紅白の血が入っている可能性があるかもしれません。黒化を防ぐために……そういうことが影響しているのかもしれない。

—— 緋色も何ともなしに違うものね？

大菊 ええ。他の生産者でドイツ紅白を掛けた人もいますが、地の色も秋翠とは少し違うような気がします。

—— 衣みたいなの、五色みたいな……変な色をしているんだ。

大菊 そういう色ね。

—— もともとは赤黒いですよね。

大菊 もともとの秋翠レッドというのは、レンガ色の、ちよっと透き通ったような感じで、くれない紅色と言うんですか、そういう色が基本だったので、そういう感じを受けるのかもしれません。

秋翠の系統と生産者について

—— 玉浦産も阪井系統を引いているんですか。

大菊 ちよっと違うような気がします

くなりやすいと書いてありました
が、あれは本当ですか。

大菊 「背赤の鯉が黒くならない」と、僕も最初に言われて、そういうものかなと思って飼ってみました。でも、必ずしも、背赤があるからといって黒くならないとは言えないと思います。背赤があっても黒くなった鯉もいっぱいいます。

逆に、背赤がなくて黒くならない鯉がいるかというと、それもいるんです。ただ、10本飼って何本なるかという確率の問題からいくと、背赤

のある鯉のほうが黒くならにくいという傾向はあるかもしれませんが、「絶対」という条件ではないと思います。

—— 阪井産の鯉は比較的背赤のない鯉が多いようですが？

大菊 多いですね。阪井産の鯉は背赤がなくても黒くならにくいですね。

—— そのかわり、赤が飛びやすい（笑）……

大菊 ええ（笑）……

—— 頭にあった緋なんか、みんな飛

す。鱗並みと鱗の形が阪井産の鯉と傾向が違うと思います。それ以外に阪井産はどちらかというと、頬の緋が欠ける傾向がありますが、玉浦産は増えていますから、性質が違ふと思います。したがって、鯉の選び方も異なってくると思います。

——玉浦、阪井以外で秋翠の生産はどこでやっていますか。

大菊 西日本では大和郡山で何軒か作っているのと、新潟では重蔵さんと留蔵さんが作っています。留蔵産の秋翠も綺麗です。多分、留蔵さんの親は富山からきた系統だと思っています。あとは小出の高橋半重郎さんでも作っています。

最近では輸出が盛んなので、新潟のどこでも秋翠を採っています。竹沢あたりでは重蔵さんが秋翠を採って良かったので、みんな秋翠を作っていて、どこも「秋翠だらけ」という感じですから、今では秋翠は生産品種のなかでも、御三家以外では多く作られていると思います。

花秋翠はどこから出現する？

——花秋翠という華やかな鯉がいま
すが、あれは生まれつきの模様です

か。

大菊 花秋翠というと、緋盤がお花模様になります。ポンポンポンと分割したような丸い模様の鯉です。しかし、秋揚げの当才では花秋翠は1本も見られません。模様は、大きな流れ模様になっているか、それが多少ウェーブしているかのどちらかの感じになっています。それが2〜3才になった時に、流れ模様が分割するものが出てきます。

紅白でも大きくしている途中で、模様が欠けたり飛んだりする鯉がいて、それである部分が残ったりします。それと同じように、花秋翠というのは急激に魚が伸びた時に、緋ギワの悪いところやボヤけたところが飛んで、しっかりと芯が残ったところだけが分割して、離れ島のように残ったものが花秋翠と言われます。

——緋が飛ぶということは将来性がないわけですか。

大菊 それは一概には言えません。そのようになる鯉がいるんです。小さい時に急激にガーンと伸びると、温度変化とか、成長の勢いなどで、緋が縮んだりする鯉がいます。何かの刺激があつて、御三家でも緋が動くことがあります。動いた時に、一部分残った緋がしっかりと締まってきた、丸模様としてポンポンと残るようになったものが花秋翠と言われます。

——品評会の時の評価はどうですか。

大菊 生産者によっては花秋翠は貴重なので高い評価をする人もいれば、浅黄の見方に準ずるとして人にとっては、緋は左右対称で、体の側線にびっしり入っていたほう



●写真口／重蔵産の花秋翠。品評会での評価は審査員によって分かれる。
95年9月号 (No.100) より



が良いという人もあつて、評価は分
かれます。正直言つて、審査員の好
みです。

——有名なのは重蔵産の花秋翠（写
真口）ですよ。

大菊 あれも重蔵さん、いわく「当
才の時はあんな模様じゃなかった」
と……「1本模様が飛んで、あのよ
うになった」と……。

——何年前かの本を読むと、秋翠は
側線より上には緋がなくて船底緋が
主流で、上は青いほうが良いと書い
てありますね？

大菊 そうです。古い本では、側線

より下にある緋が基本的な秋翠の見
方で、体の皮のブルーの地を楽しむ
……浅黄と全く同じです。逆に浅黄
がこんなに真つ赤だったら、誰も買
わないですよ。網目を楽しむ良さ
がないわけです。

しかし、秋翠には網目がわずかな
鱗の部分しかないわけで、そこが引
き立つかどうかを考えると、緋の量
は関係なく、むしろ大きくなった時
に、秋翠はブルーが薄くなっていく
傾向がありますので、見どころがな
くなってくるんです。大きくなった
時の見どころとしては緋しかありま

せんので、緋の変化や緋の量が多い
ほうが華やかで綺麗だと僕は思っ
ます。ですから、小さいうちは、側
線より下に入っていたほうが、ブル
ー地が濃い魚ですと引き立つので、
良いと思うんですが、大きくした時
は緋に勢いがあつたほうが、豪快さ
や華やかさがあるのではないかと思
います。今では側線より下だけに緋
がある秋翠は見かけることがなくな
ってきました。だから、華やかな鯉
を好む傾向が強くなっているよう
です。

* * * * *

秋翠の評価は西日本のほうでは低
いようです。市場に出荷される秋翠
を見ても良い鯉はいなくて、良いも
のでも1本が15000円とかで、数
で取引をされているようです。

どの品種でもそうですが、紅白で
も良いものは数百万円もしますが、
中羽は150円とか、1500円とか
なわけです。だから、秋翠だから
「どうの」ということではなく、多
くの人がそのような見方をされてい
ますので、逆にいえば、秋翠のカシ
ラは当才でもそんなに高くないわけ
です。紅白のカシラは当才で何十万
もしますが、秋翠のカシラで何十万

というのは僕もまだ見たことがない
ので、多分ないと思います。

秋翠を作っている人に言わせる
と、秋翠の価格はピラミッド型には
ならない……台形のような形で、ト
ップクラスの鯉がある程度数がで
きるんです。その数がありますので、
値段的にも飛びぬけて高い鯉がいな
いのもかもしれません。

それと、秋翠には黒くなりやすい
という欠点があますので、確実に良
くなる保証がないので、値段的にも
抑えられている……逆に言えば、誰
にでも買いやすい値段で、秋翠の良
いものは求めることができると思
います。

僕も秋翠が好きでずっと追いか
けてやって……何とか、鯉屋を始め
今年で10年ですけど、いろいろなお
客さんにお世話をさせてもらって、
写真も残るくらいになりました。今
回は皆さんに写真を見ていただきな
がら、秋翠を集中的に取り上げてみ
ましたが、多少なりとも秋翠のおも
しろさをわかっていただければ、こ
れ幸いだと思います。本日は長時間
にわたりお聞きくださいましてあり
がとうございました。